



## 神山復生病院を訪問しました



中和田教会信徒の皆様へ

パウロ 高野 哲夫 神父

待降節が始まりました。キリストの受肉が私たちのうちに現れますように！！

さて、先日のミサのお知らせのときに、「中和田教会と藤沢教会の子供達が、ハンセン病の病院であり、シスター方が行っている御殿場・神山復生病院へ行くためのカンパをお願いします！」と呼びかけ、沢山の寄付をいただきました。誠にありがとうございました。おかげさまで、子供達は病気の事、そこで生活している方々の事、働いていた方々の事などを学び、また、藤沢教会の子供達とも交流し、豊かな恵みをいただいて帰ってくることができました。子供達の感想文を読んでいただいて、その実りを味わってください。皆様の、支えにより無事に行う事ができましたことをご報告しますとともに、深く感謝いたします。これからも、子供達のキリスト者としての成長を支え、見守っていただけますようよろしくお願いいたします。

### 復生病院に行つて

美底 沙織

私は、高野神父様から初めてハンセン病の患者さんの話を聞いたとき、日本でそんな事があつたということを知らなかつたので、「そんな病気で苦しんでいる人がいて、しかも家族と一緒にいられないなんてかわいそう」、「病院にいるのは、とてもつらいだろうな」と思いました。

しかし、実際にハンセン病の患者さんの話を聞くと、「ここに居るのは楽しい」と言っていました。どうしてかなと思うと、そこは食べ物も少ないし、労働も大変だけど、シスター達などからの愛情があるから……。私はこの言葉がいちばん印象に残りました。

シスター達や堀さんが、昔はらい病は感染する病気だといわれていたのに、直接患者さんに触れて看護をしている姿をビデオや話から知り、「すごいなあ」「この気持ちはどこから湧くのかな」と思いました。差別や偏見という行動はなく、一人ひとりに優しく接していたシスターや堀さんの姿を想像しながら時を過ごしました。これから、この体験を忘れずに、もっと考えていきたいと思いました。

また、この体験を通して、他の教会の人々とも友達になれてとてもよかつたです。1日目のカレー作りから、みんなで協力し、楽しい時間を過ごしました。2日目は、みんな本当に前から友達だつたように仲良くなれ、この2日間は忘れられないものになりました。

ありがとうございました。



神山復生病院 正面は聖堂

### 神山復生病院

森脇 留美

私は、復生病院へ行つて、今までは知らなかつたたくさんのお話を聞くことができました。

いちばん心に残つたのは、藤原さんの話を聞いたことだ。

「たとえば、ハンセン病になつて、目が見えなくなつたりする。でも、何年もすると、なれてしまう。そのことを受け入れ、分かることができたら、なれてしまう」。私はこのことを聞いて、とても不思議になつた。なれてしまうということ。私は今まで、そのような考え方をしたことがなかつた。ずっと、そのことが私の頭からはなれなかつた。

私が復生病院へ行つて教わつたこと、それは生きるということ。たとえ自分の体が病気や不自由になつても、その中で、神様からいただいた命をせいっぱい生きること。このことが、人間として生きるための、いちばん大切なことなのだと知つた。

### 復生病院に行つて

石原 知世

復生病院に行つていちばん印象が強かつたのは、復生病院に実際にいる人から聞いたお話のことです。本やインターネットで知ると、実際に話して下さるとは、やはり重みが違いました。話を下さっている間は、とにかく驚き、そして胸が詰まるような悲しい気持ちになりました。

復生病院に行つて、いろいろなことを学ぶことができ、そして、私の当たり前としていたことが、当たり前ではなくなりました。復生病院で学んだことを、ずっと覚えていきたいです。



### 保護者として御礼申し上げます

美底 真理安

↑この度、要理学校の子供たちの復生病院訪問に際しましては、有志の皆さまより多大なご支援をいただきありがとうございました。

この貴重な体験の中で、子どもたちは、日常生活の中ではなかなか触れる機会のない価値観に出会えたのではないのでしょうか。ここで学んだことを糧に、神と人々への愛に目覚める子ども達でありますように、祈りたいと思います。

中和田教会の皆さまの熱い信仰と真心からのご支援を、心から感謝致します。

また、忙しい中、この企画を準備し奉仕して下さいました高野神父様と藤沢教会のリーダーの方に、心からのお礼を申し上げます。



復生記念館

神山復生病院は、1887年(明治20年)パリ外国宣教会のテストウィド神父が伝道の道すがら一人の女性ハンセン病患者と出会い、社会で放置された同病者の救済を思い立ち、御殿場市街に家屋を借用して六名の患者を保護したことから始まりました。その後日本の私立ハンセン病院として、多くの病者が治療と生活を当地でしてきました。現在、ハンセン病は特殊な病気ではなく一般病院で治療を受けるようになりました。復生病院では過去のハンセン病への理解とここで生涯を終えられた人々の生活の歴史を後世に残すために2004年に記念館を開設しました。展示室には、年表、歴代院長、患者たちの生活の写真・物品、ミサ祭具類、娯楽に使われた楽器、他各種資料・遺品等が展示されています。

## Merry Christmas

2006. 12. 24

